



M.M.Honcho Newsletter

【7月号】令和5年6月30日発行



子どもの力を伸ばすためのESD理解

校長 小正 和彦

ユネスコスクールに加盟したこともあり、本年度も昨年度に引き続き、月曜日の朝会で「国際デー」についてよく紹介をしています。本校で学ぶ6年間を通して、子どもたちがこれからの持続可能な社会創りを自分事として考えることのできる力をつけてもらいたいと思っておりますが、そのための一つの視点として、ものごとを地球規模で捉えること、その中で日本、横浜に住む自分たちのよさと課題を考えることができればと思います。梅雨の季節、雨が多いことを人間の視点だけでなく、生き物や環境の視点で捉えたり、日本の水の豊かさとの関係を理解したりと、多角的に見て、感じることができるとよいと思います。

6月2日は開港記念日で授業はありませんでしたが、市庁舎アトリウムで行われたイベントに高学年の児童10名が学校代表として参加しました。横浜市政策局による「子どもたちによるYOKOHAMAの明日をひらくワークショップ」というイベントで、市内の5つの小学校からの取組報告とメッセージの発信に続いて、5校の小学生が混じってグループになり、未来のよりよい横浜に向けて自分たちができることについて意見交換をしました。山中市長も参加され、各学校の発表、グループワークと見られ、子どもたちにたくさんの価値づけとなる言葉をかけてくださいました。

本校の発表は、6年生が取り組んだ校歌プロジェクトについてでした。横浜から世界に向けて、SDGsの達成を通して「いろとりどりの未来」を目指そうという想

いを発信しました。山中市長からは、自分たちの想いを専門学校の方々と一緒に、校歌として作詞、作曲すべて0から作り上げたことが大変素晴らしいとの講評をいただきました。参加した子どもたちも充実感とともに、ひとつひとつの自分の活動が周りに広がり、訴求していくこと、変容のきっかけとなることを感じたことと思います。一人ひとりのこれからの繋がるとてもよい機会となりました。

6月に入り、各学年・学級でのESD活動も活発になってきました。テーマやゴール(目標)を話し合い、そのための活動内容や協働先を考えていっている姿がいろいろな学級で見られます。用意されたカリキュラムではなく、子どもたちが自分たちで決め、主体的に取り組んでいくプロジェクト学習だからこそ、その成果は単なる体験で終わらず、振り返り、概念化を通して、その後の学習や成長に繋がっていきます。子どもにとっては、学校内での活動に閉ざされることなく、ご家庭や日常生活全体の中で意識したり、取り組んでいたりすることにより、一層個人の力へと繋がっていきます。

7月1日(土)の本年度2回目の校長ミニ講演会では、そのようなESD活動が子どもにとっての力となっていくために、保護者の皆様にとってのESD理解についてお話します。授業参観と合わせてお気軽にご参加ください。お待ちしております。

《専任より》

子ども同士による金銭や物のやり取りをしないために

5月の学校説明会資料にも記載の通り、子ども同士の金銭授受については、「行ってはいけない行為」として学校では指導しています。地域や商業施設等で過ごす際に金銭の授受でトラブルになり、結果的に大きな問題に発展したり、事件に巻き込まれたりする事案が少なからず見られます。放課後の遊びの中でも、「おごる」「買ってもらう」等でトラブルになっています。

金銭や物のやり取りは、たとえ仲の良い関係であっても行わない方がよい行為です。最近では、ネットゲーム(課金)などにより、金銭感覚が麻痺して、事実が把握しにくくなる危険性もあります。

そのような行為が行われる背景には、金銭を持ち出せる環境や、子どもたちの金銭感覚、規範意識の問題やいじめの問題が潜んでいる場合もあります。この機会に、ぜひご家庭でも金銭や物の大切さについて話し合ってください。

児童支援専任 赤津 淳子

